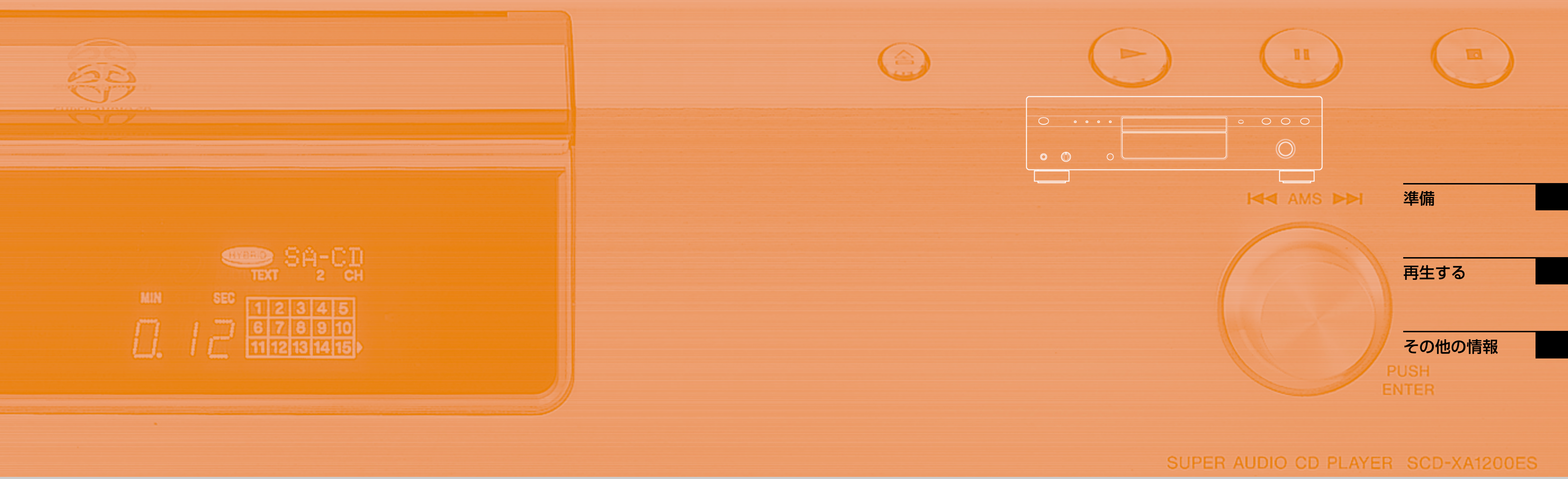
2-696-254-03(2)

SONY

XA1200ES
MULTI CHANNEL / DIRECT STREAM DIGITAL



スーパーオーディオCDプレーヤー

SCD-XA1200ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SUPER AUDIO CD

COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

* 2 6 9 6 2 5 4 0 3 * (2)

Printed in Malaysia

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
  （チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

音量を調節するときは

スーパーオーディオCDはCDと比べ、可聴帯域を超える高域成分の出力が可能です。不用意に音量を上げてしまうと、音が聞こえないにもかかわらず、ノイズが発生したりアンプの保護回路が働いたり、スピーカーを破損したりするおそれがあります。
再生を始める前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約1時間放置し、再度電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスクについて

市販のレンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

本体を持ち運ぶときは

- 入っているディスクは、必ず取り出しておいてください。
- 必ずディスクトレイを閉めた状態にしておいてください。

ディスクを入れたときは

本体から発信音や機械音が聞こえることがあります。
これは、各ディスクに合わせて本体内部のサーボが自動調節を行ったときに出す音です。

ご注意

スーパーオーディオCDプレーヤーは、ディスクをローディングしてから再生が始まるまでの時間が、一般的なCDプレーヤーより長くかかることがありますが、故障ではありません。
これは、ディスクの種類の判別、サーボ調整、著作権保護の確認などを、再生するディスクごとに本体内部で自動的に行っているためです。

目次

準備

再生する

その他の情報

本機の特長

本機は、スーパーオーディオ2チャンネルとマルチチャンネル、および現行のCDの再生に対応しており、以下のような特長があります。

- スーパーオーディオCDと現行CDのディスク信号の読み取りに、各々の専用波長のレーザーを持つ、ディスクリートデュアルレーザー光学ピックアップを搭載しています。
- 先進のサーボメカニズムにより、迅速なトラックアクセスを実現しています。
- マルチチャンネルマネージメント機能により、スピーカーの配置やサイズに合せた、マルチチャンネルの再生環境の設定が可能です。
- スーパーオーディオD／Aコンバーターの採用で、より高音質の再生を実現しています。
- スーパーオーディオCDでは、最大255曲までのトラック/インデックス番号の収録が可能になりました。本機はこのフォーマットに対応しています。

再生できるディスクについて

本機では次のディスクを再生できます。

- スーパーオーディオCD
- CD

以下のディスクは本機では再生できません。

- CD-ROM（MP3、JPEGなど）
- DVD
- DTS-CD
- DualDisc

など

CD-ROMやDVDを入れると、エラーメッセージ「TOC ERROR」や「NO DISC」が表示されたり、再生しても音が出なかったりします。DTS-CDとDualDiscについては、それぞれ下記のご注意をご覧ください。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

CD-R/CD-RW再生時のご注意

CD-R/CD-RWドライブで録音されたディスクには、傷や汚れ、また録音状態や録音機の特性等が原因で、再生できないものがあります。また、すべての録音終了時に録音の終わりを記録するファイナライズ作業をしていないディスクは再生できません。このとき「READING」が表示されたままだったり、「TOC ERROR」が表示されます。

DTS-CDについてのご注意

本機はDTS-CDの再生に対応していません。DTS-CDを誤って再生すると、極端に大きなノイズが出ることがあり、本機の故障の原因となることがあります。

DualDiscについてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。
なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）の規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

スーパーオーディオCDについて

スーパーオーディオCDとは、現行のCDなどに用いられているPCM方式とは異なるDSD（ダイレクトストリームデジタル）方式で記録された、新しい高音質オーディオディスクの規格です。DSD方式は、CDの64倍にあたるサンプリング周波数で、1ビットの量子化の採用により、現行のCDをはるかに超える広い再生帯域と可聴帯域における十分なダイナミックレンジを確保し、原音をより忠実に再現します。

スーパーオーディオCDディスクの種類

スーパーオーディオCD層とCD層の組み合わせにより2種類のディスクがあります。

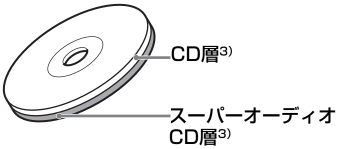
スーパーオーディオCD層：
スーパーオーディオCDの高密度信号層

CD層[1]：既存のCDプレーヤーで読み取り可能な層

シングルレイヤーディスク
（スーパーオーディオCD層が単層のみのディスク）



ハイブリッドディスク[2]
（スーパーオーディオCD層とCD層とが2層になっているディスク）

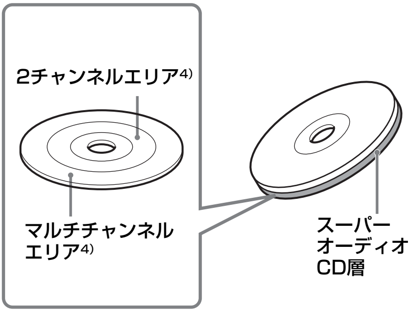


またスーパーオーディオCD層には、2チャンネルエリアとマルチチャンネルエリアがあります。

2チャンネルエリア：2チャンネルのステレオ用トラックを記録したエリア

マルチチャンネルエリア：
5.1チャンネルまでのマルチチャンネルトラックを記録したエリア

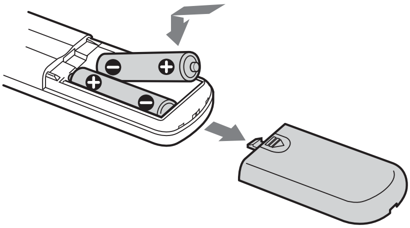
例えば、ハイブリッドディスクのスーパーオーディオCD層に2チャンネルエリアとマルチチャンネルエリアの両方が記録されている場合



[1] CD層の内容は通常のCDプレーヤーでも再生できます。
[2] 2層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。
[3] お聞きになりたい層は、SA-CD/CDを押して選びます（11ページ）。
[4] 両方のエリアが記録されているディスクの場合は、MULTI/2CHを押して聞きたいエリアを選びます（12ページ）。

リモコンに電池を入れる

付属の単3形乾電池2個を、イラストのように⊕と⊖の向きを正しく入れてください。リモコンを使うときは、本機のリモコン受光部R に向けてください。



ちょっと一言

電池の交換時期は約6か月です。リモコンを本体に近づけないと操作しづらくなったら、2個とも新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ー 高温、多湿のところに放置しないでください。
  - ー 電池交換時などに、電池ケースに異物を入れないでください。
  - ー ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - ー 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - ー 乾電池は充電しないでください。
  - ー 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - ー 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部R に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

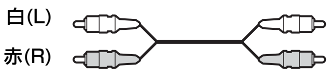
接続する

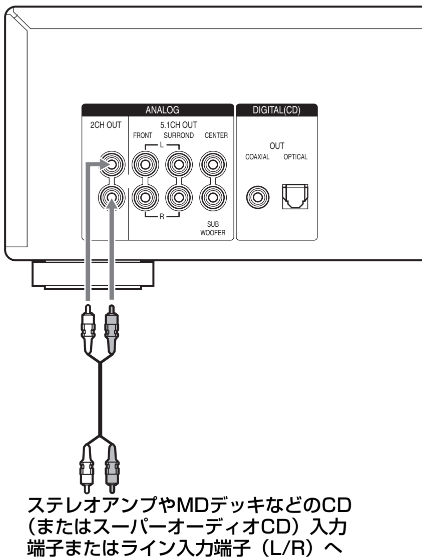
スーパーオーディオCDプレーヤーと他の機器を接続します。接続するときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。
接続するときは、機器の電源を必ず切ってください。

ステレオアンプやMDデッキに接続する

本機をステレオアンプやMDデッキのアナログ入力端子に接続するときは、ANALOG 2CH OUT L/R端子に接続します。
接続には、付属のオーディオ接続コードを使います。白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。

オーディオ接続コード（付属）





ステレオアンプやMDデッキなどのCD（またはスーパーオーディオCD）入力端子またはライン入力端子（L/R）へ

ご注意

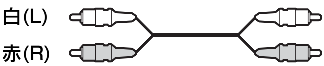
スーパーオーディオCDのマルチチャンネルエリア（5ページ）を再生しているときは、2CH OUTからはマルチチャンネル信号のFRONT L/Rだけが出力されます。この場合、ディスクによってはボーカルや他の音声が聞こえないことがあります。

マルチチャンネルアンプに接続する

ANALOG 5.1CH OUT端子を使ってマルチチャンネルアンプや5.1CH入力対応のAVアンプと接続すると、マルチチャンネル再生を楽しむことができます。
接続にはオーディオ接続コードを使います。
本機のANALOG 5.1CH OUTの各端子（FRONT L/R、SURROUND L/R、CENTER、SUB WOOFER）を、それぞれに対応したアンプの端子と接続します。
FRONT L/R、SURROUND L/R端子の接続にはオーディオ接続コード（赤／白）を使用します。白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。
CENTER、SUB WOOFER端子の接続にはオーディオ接続コード（黒）を使用します。

FRONT L/R、SURROUND L/R端子の接続

オーディオ接続コード（付属*）

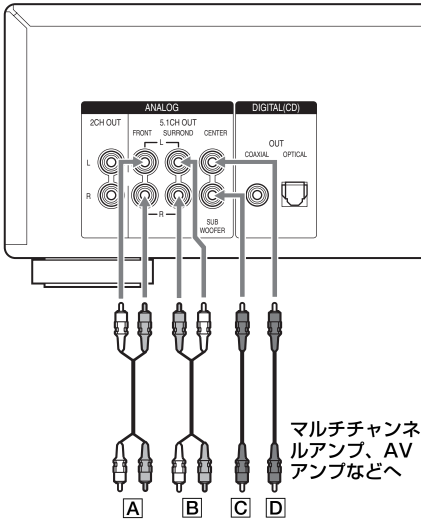


* ANALOG 2CH接続に、オーディオ接続コード（付属）を使用した場合、ANALOG 5.1CH接続に使用する付属コードが不足します。

CENTER、SUB WOOFER端子の接続

オーディオ接続コード（付属）





A: フロントスピーカーの入力端子（L/R）へ
B: サラウンドスピーカーまたはリアスピーカーの入力端子（L/R）へ
C: サブウーファーの入力端子へ
D: センタースピーカーの入力端子へ

ご注意

- スーパーオーディオCDのマルチチャンネルのディスクは、5.1CH（チャンネル）のほかに、5CH、4CH、3CH等のチャンネル数のディスクもあります。これらのチャンネル数のディスク再生時は、5.1CH OUT端子のすべてから音が出るとは限りません。詳しくはマルチチャンネルのソフト（ディスク）のジャケットや添付の説明書をご覧ください。
- 2チャンネルエリアとマルチチャンネルエリアを持つディスクをANALOG 5.1CH OUT端子で再生しているときは、優先して再生するエリアを「SEL-Mch」に変更してください（12ページ）。「SEL-2ch」に設定されていると自動的に2チャンネルエリアが再生され、マルチチャンネルを楽しめません。

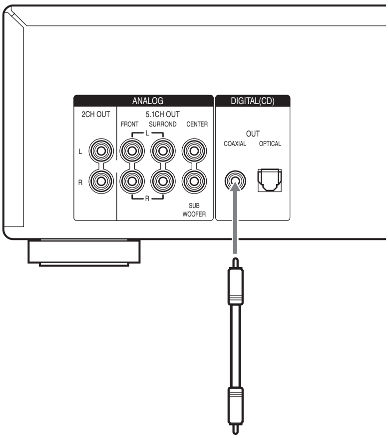
次のページへつづく

デジタル機器に接続する（COAXIAL）

本機を同軸デジタル入力端子付きのMDデッキなどのデジタル機器に接続をするときは、DIGITAL (CD) OUT COAXIAL端子に接続します。
接続には、同軸デジタル接続コードを使用します。

同軸デジタル接続コード（別売り）





MDデッキなどの同軸デジタル入力端子へ

ご注意

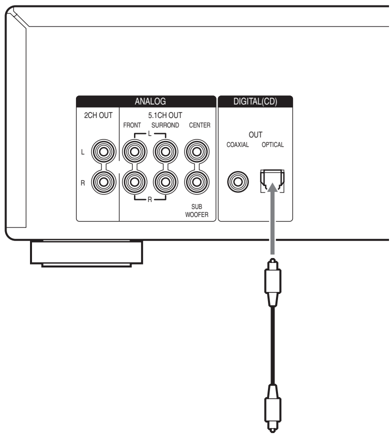
DIGITAL (CD) OUT COAXIAL端子からはCDの音声のみ出力されます。スーパーオーディオCDの音声は出力されません。

デジタル機器に接続する（OPTICAL）

本機を光デジタル入力端子付きのMDデッキなどのデジタル機器に接続をするときは、DIGITAL (CD) OUT OPTICAL端子に接続します。
接続には、光デジタル接続コードを使用します。光デジタル接続コードのプラグをカチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。光デジタル接続コードは折り曲げたり、ねじらないようにしてください。

光デジタル接続コード（別売り）





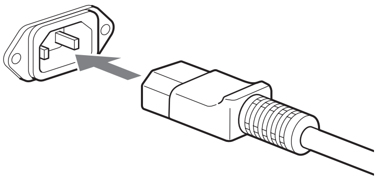
MDデッキなどの光デジタル入力端子へ

ご注意

DIGITAL (CD) OUT OPTICAL端子からはCDの音声のみ出力されます。スーパーオーディオCDの音声は出力されません。

電源コードをつなぐ

付属の電源コードを本体後面のAC IN端子につなぎ、プラグを壁のコンセントに差し込みます。



本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリのすき間ができますが、これで正しくつながれています。

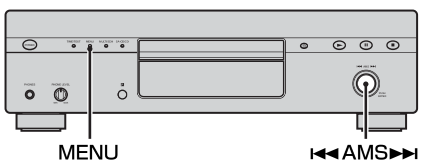
他のソニー製CDプレーヤーと組み合わせて使う

以下の操作は、CD1/CD2(リモコンのコマンドモード)の切り換えができる、他のソニー製のリモコンをお持ちの場合にのみ可能となります。本機と、他のソニー製ＣＤプレーヤーのコマンドモード（本体側）を違う設定にすることにより、CD1/CD2の切り換え可能なリモコンで両方のプレーヤーの操作が可能となります。

ご注意

本機に付属のリモコンのコマンドモードはCD1固定です。もし本機（本体側）をCD2に設定すると、本機は付属のリモコンから操作できません。

本体側のコマンドモードを設定する



1 MENUを押す。

2 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「CD1/2 SEL」を選ぶ。

3 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

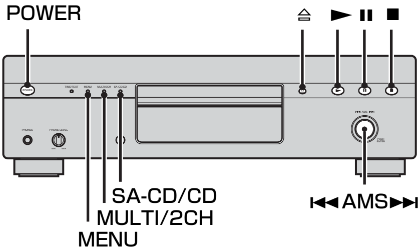
現在のコマンドモードが表示されます。

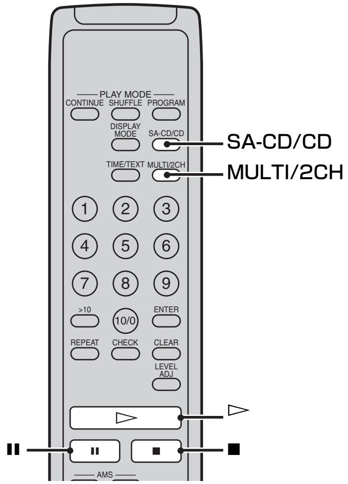
4 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「CD–1」または「CD–2」を選び、⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

本機と他のソニー製ＣＤプレーヤーの、それぞれのコマンドモード（本体側）を違う設定にするには、他機のモードがCD1の場合には本機の設定を「CD-2」に、他機のモードがCD2の場合には本機の設定を「CD-1」にしてください。リモコンで操作を行なうときにはリモコン側のコマンドモードを、操作したいプレーヤーのコマンドモードに合わせます。

ディスクを再生する

ふつうの再生のしかたと再生中の基本操作について説明します。



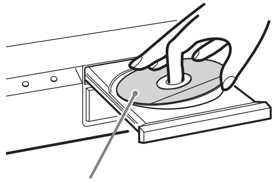


1 アンプの電源を入れる。アンプのボリュームを最小にする。

2 アンプの入力切り換えで本機を接続している機器のファンクションを選ぶ。

3 本機のPOWERスイッチを押して電源を入れる。

4 ≙を押してディスクトレイを開け、ディスクを置く。



文字の書いてある面を上に

5 ►を押す。

1曲目から再生が始まります。途中の曲から再生を始めたいときは、►を押す前に⏮AMS⏭ダイヤルを回し、曲番を選んでおいてください。

6 アンプで音量を調節する。

再生中の基本操作

操作	使うボタン
再生を止める	■
再生を一時停止する	▮▮
一時停止した再生を再開する	▮▮または►
曲を選ぶ	⏮AMS⏭ダイヤルを回す。
ディスクを取り出す	≙

ちょっと一言

ディスクが入っているときに電源を入れると自動的に再生が始まります。市販のタイマーと組み合わせると、好きな時間に再生を始めることができます。

ご注意

再生時には、ボリュームを最小の状態から徐々にあげてください。
本機で再生される音楽信号には可聴帯域外の成分が含まれており、スピーカーや耳にダメージを与えることがあります。

ダイレクト選曲で探す

曲番を数字ボタンで入力する。

ちょっと一言

11曲目以降を入力するには、まず、>10ボタンを押します。次に数字ボタンを使って、10の位、1の位の順番で曲番を入力します。0を入力するときは10/0ボタンを押します。

例： 30曲目を選ぶとき　>10 → 3 → 10/0
　　 100曲目を選ぶとき　>10 → >10 → 1 → 10/0 → 10/0

スーパーオーディオCD層とCD層を切り換える

スーパーオーディオCD層とCD層とが2層になったハイブリッドディスク（5ページ）を再生する場合、聞きたい層を選ぶことができます。（2層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。）

SA-CD/CDを押して、層を選ぶ。

ご注意

SA-CD/CDを使って変更する場合は、現在入っているディスクのみに有効です。

優先して再生する層を変更する

ディスクを入れた時に優先して再生する層を選ぶことができます。

1 **MENUを押す。**

2 **I◀◀AMS▶▶Iダイヤルを回して、「LAYER SEL」を選ぶ。**

3 **I◀◀AMS▶▶Iダイヤルを押す。**
現在の設定が表示されます。

4 **I◀◀AMS▶▶Iダイヤルを回して、再生したい層を選ぶ。**

5 **I◀◀AMS▶▶Iダイヤルを押す。**

エリアを切り換える

2チャンネルエリアとマルチチャンネルエリアの両方が記録されているディスク（5ページ）を再生する場合、聞きたいエリアを選ぶことができます。

MULTI/2CHを押して、エリアを選ぶ。

ご注意

- 本機は初期設定で2チャンネルエリアを選択しているので、2チャンネルを再生するときはエリアを切り換える必要はありません。本機をANALOG 5.1CH OUT 端子で接続している場合に、「SEL–Mch」（マルチチャンネルエリア）に切り換えてください。
- MULTI/2CHを使って変更する場合は、現在入っているディスクのみに有効です。

優先して再生するエリアを変更する

ディスクを入れた時に優先して再生するエリアを選ぶことができます。

1 MENUを押す。

2 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、「M/2ch SEL」を選ぶ。

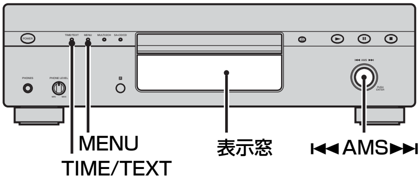
3 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。
現在の設定が表示されます。

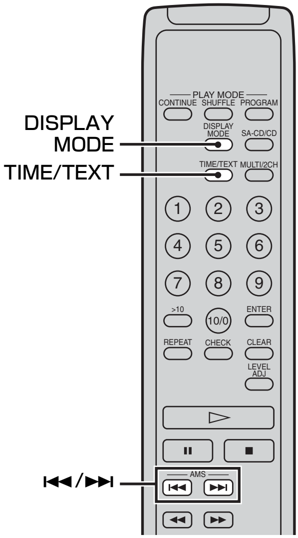
4 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、再生したいエリアを選ぶ。

5 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

表示窓の見かた

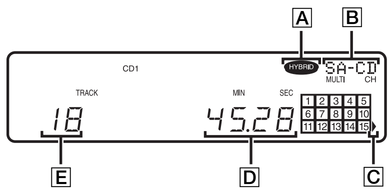
表示窓には、ディスクや再生中の曲に関するさまざまな情報が表示されます。本機の状態によって、表示される情報は変わります。





ディスク装着時の表示

ディスクの全曲数や全再生時間が表示されます。



A ハイブリッドディスク表示
B ディスクの種類と再生チャンネル数
C 全曲数が16曲以上のとき表示
D 総再生時間
E 総曲数

TEXTの情報を見る

音楽信号の他に、ディスク名やアーティスト名などの情報を記録させたものがTEXT付きディスクです。本機ではTEXT情報として、ディスク名やアーティスト名、再生中の曲名を見ることができます。
TEXT付きディスクを入れると、「TEXT」が表示されます。多言語で情報が記録されているTEXT付きディスクの場合は、「MULTI-TEXT」が表示されます。他の言語で情報を見たいときには「TEXTの情報を他の言語で見る」（14ページ）をご覧ください。
TEXTの情報が13文字以上のときは、1度スクロールし、その後は最初の12文字が表示されます。

ご注意

本機で表示できるのは英数字のみです。日本語は表示されません。

停止中のTEXT表示

TIME/TEXTを押す。
押すたびに、ディスク名またはアーティスト名が表示されます。アーティスト名の表示のときは「ART.」と表示されます。

ディスクのタイトル*



ディスクのアーティスト名*



ディスクの全曲数と総再生時間



* TEXT付きディスクのみ

再生中のTEXT表示

TIME/TEXTを押す。
マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク装着時は、曲名の表示の後にマルチチャンネル情報を表示します。

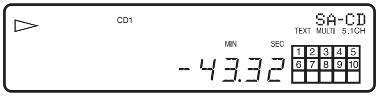
再生中の曲の番号と再生時間



再生中の曲の残り時間



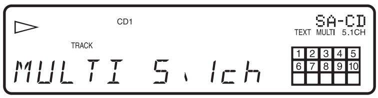
ディスク（またはプログラム）全体の残り時間



曲名*



マルチチャンネル情報（マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク装着時のみ）



* TEXT付きディスクのみ

ご注意

- ディスクによっては、表示できない文字があります。
- 本機はTEXT情報のうち、ディスク名やアーティスト名、曲名のみを表示します。その他のTEXT情報は表示できません。

次のページへつづく

表示を消す

リモコンのDISPLAY MODEを押す。

再生中に押すたびに、表示が消えたりついたりします。
ただし、表示が消えるのは再生中のみで、再生を止めたり一時停止したりすると、表示がつきます。再び再生を始めると表示は消えます。
再生を始める前に、DISPLAY MODEを押して表示を消すと、「DISP OFF」が表示され、もう１度押すと、「DISP ON」が表示されます。

TEXTの情報を他の言語で見る

お手持ちのTEXT付きディスクが、複数の言語で記録されていれば、表示を切り換えることができます。このようなディスクを入れると、「MULTI-TEXT」が表示されます。この場合は以下の手順で言語を切り換えます。

1 MENUを押す。

2 ⏮ AMS⏭ダイヤルを回して、「LANGUAGE」を選ぶ。

3 ⏮ AMS⏭ダイヤルを押す。

現在選択されている言語名（ENGLISH、FRENCH、GERMANなど）が表示されます。
本機で表示することができない言語が記録されていた場合は、「OTHER LANG」が表示されます。

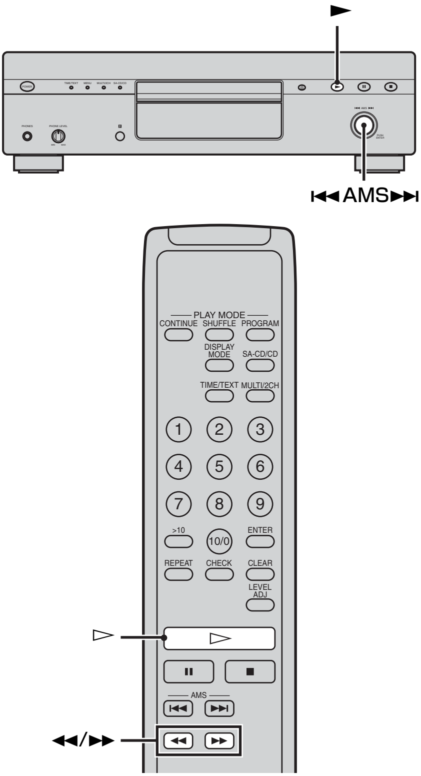
4 ⏮ AMS⏭ダイヤルを回して、言語を選ぶ。

5 ⏮ AMS⏭ダイヤルを押す。

新たに選択した言語で情報が表示されます。

再生したい部分を探す

再生中または一時停止中に、曲の中の聞きたい部分を選ぶことができます。



探しかた	操作のしかた
再生しながら探す（サーチ）	再生中、リモコンの◀◀/▶▶を押す。
時間表示を見ながら探す（高速サーチ）	一時停止中、リモコンの◀◀/▶▶を押す。
再生開始時間を決めて探す（タイムサーチ）	**1** 停止中に⏮ AMS⏭ダイヤルを回して、聞きたい曲を選ぶ。 **2** リモコンの◀◀/▶▶を押したまま、ディスプレイを見ながら、再生を開始する時間を決めて、►を押す。

ちょっと一言

「OVER」と表示されたときは最後の曲の終わりまで進んでいます。リモコンの◀◀を押してください。

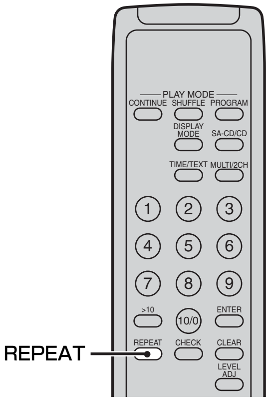
ご注意

極端に短い曲が連続している部分は、正常にサーチできない場合があります。

くり返し再生する

（リピート再生）

ディスクの全曲または1曲をくり返し再生します。シャッフル再生（17ページ）やプログラム再生（17ページ）を選んだ状態でも、くり返し再生できます。



リモコンのREPEATをくり返し押して、「REP」または「REP 1」を表示させる。

REP：全曲をくり返します（5回まで）。
REP 1：1曲だけをくり返します。
「REP」選択時は、選ばれている再生のしかたによって、くり返しかたが変わります。

選ばれている再生	くり返しかた
ふつうの再生（10ページ）	全曲を順番に再生する
シャッフル再生（17ページ）	くり返すたびに曲順が変わる
プログラム再生（17ページ）	プログラムの曲順に再生する

リピート再生を解除するには

「REP」または「REP 1」が消えるまで、リモコンのREPEATをくり返し押す。

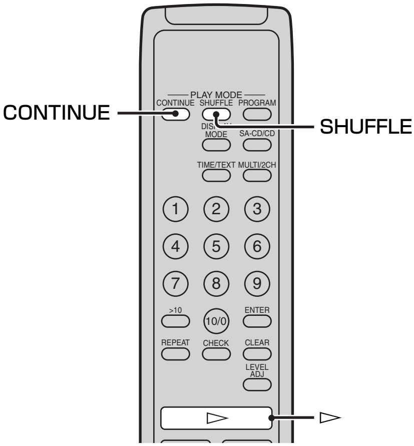
ご注意

リピート再生の設定は、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりすると解除されます。

ランダムに再生する

（シャッフル再生）

順不同に全曲を1回ずつ再生します。



1 停止中に、リモコンのSHUFFLEを押す。

2 リモコンの▷を押す。

次に再生する曲が決まる間は、が表示されます。

全曲を1回ずつ再生し終わると停止します。

ふつうの再生に戻すには

停止中にリモコンのCONTINUEを押す。

ご注意

シャッフル再生の設定は、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりすると解除されます。

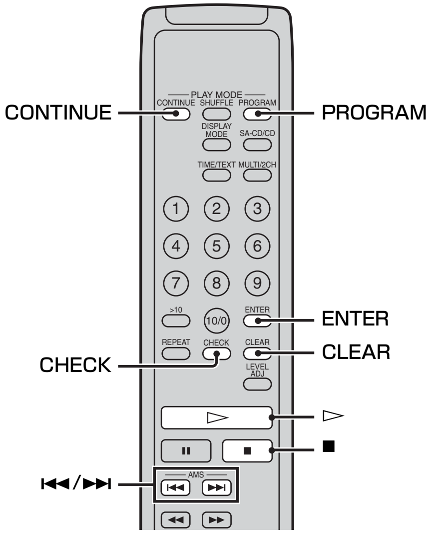
ちょっと一言

I◀◀を押してもすでに再生が終わった曲には戻りません。

好きな順に再生する

（プログラム再生）

聞きたい曲だけをプログラムして再生できます。プログラムには32曲（または合計時間999分59秒）まで登録できます。



1 停止中に、リモコンのPROGRAMを押す。

2 リモコンのI◀◀/▶▶Iをくり返し押して、曲番を選ぶ。

3 リモコンのENTERを押す。

曲をプログラムし直すには

リモコンのCLEARを押してから、手順2、3をくり返し、正しい曲番を入力する。

4 手順2、3をくり返して、聞きたい曲をすべてプログラムする。

次のページへつづく

新しい曲をプログラムするたびに、プログラムの合計時間が表示されます。

5 リモコンの▷を押す。

プログラムの再生が始まります。

ふつうの再生に戻すには

停止中にリモコンのCONTINUEを押す。

ちょっと一言

再生が終わっても、プログラムは残っています。リモコンの▷を押すと、プログラムの最初から再び再生します。再生を途中で止めても、プログラムは消えません。

ご注意

- プログラムは次の場合に消えます。
  - 本機の電源を切ったとき
  - 電源プラグを抜いたとき
  - ⏏を押したとき
  - 層やエリアを切り換えたとき
- プログラム再生中に層やエリアを切り換えると、1曲のみを初めから再生し、停止後プログラムが消えます。

プログラムの内容を確認する

再生を始める前または再生中、リモコンのCHECKをくり返し押す。

押すたびに、プログラムの曲順で、曲番が表示されます。再生中は、再生中の曲以降のプログラムから表示されます。

プログラムの内容を変更する

再生を始める前、プログラムの内容を変更できます。

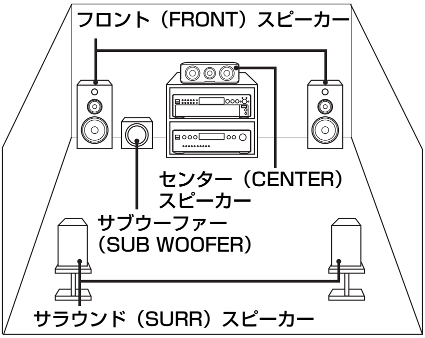
変更のしかた	操作のしかた
途中の曲を消す	**1** 消したい曲が表示されるまで、リモコンのCHECKを押す。 **2** リモコンのCLEARを押す。
最後の曲から消す	リモコンのCLEARを押す。 押すたびに、プログラムした最後の曲から消えます。
最後に追加する	手順2、3をくり返す。
すべてを消す	リモコンのCLEARまたは■を「PGM CLEAR」と表示されるまで約2秒間押し続ける。

マルチチャンネルスーパーオーディオCDを楽しむ

（マルチチャンネルマネジメント機能）

本機はマルチチャンネルマネジメント機能を搭載しています。プレーヤー内蔵のDSD-DSPにより、スピーカーの配置やサイズに合わせたスーパーオーディオCDの再生環境を設定できます。

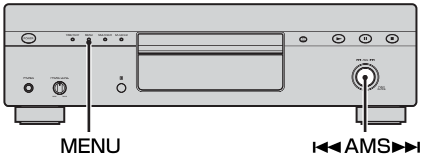
スピーカー配置の例

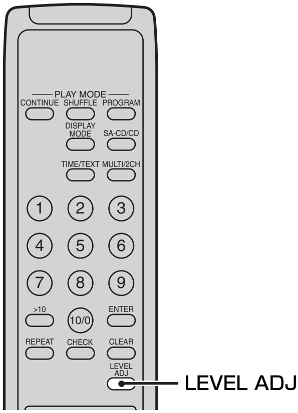


マルチチャンネルマネジメント機能を設定するには、まずあらかじめプリセットされている再生モードを選びます（2チャンネルモード、マルチチャンネルモードをそれぞれ設定します）。次に各チャンネルの出力バランスを調節します（マルチチャンネルモードのみ）。

ご注意

- マルチチャンネルマネジメント機能は、スーパーオーディオCDディスク再生時のみ有効です。
- 選択された再生モードによっては、出力バランス調節ができないものがあります。





再生モードを選ぶ

1 MENUを押す。

2 ⏮AMS⏭ダイヤルを回して、チャンネルモードを選ぶ。

「2chSP MODE」（2チャンネルモード）：
　2チャンネルが収録されたスーパーオーディオCDディスクを再生するとき

「MchSP MODE」（マルチチャンネルモード）：
　マルチチャンネルが収録されたスーパーオーディオCDディスクを再生するとき

3 ⏮AMS⏭ダイヤルを押す。

再生モードが表示されます。

次のページへつづく

4 ⏮ AMS ⏭ダイヤルを回して、再生モードを選ぶ。

初期設定は次のとおりです。

2チャンネルモード：
「2ch DIRECT」

マルチチャンネルモード：
「Mch DIRECT」

2チャンネルモードのとき

再生モード	F	SW
2ch DIRECT*	○	—
2ch + SW	○	○

マルチチャンネルモードのとき

再生モード	F	C	SR	SW
Mch DIRECT*	○	○	○	○
5–LARGE + SW	L	L	L	○
5–LARGE	L	L	L	—
5–SMALL + SW	S	S	S	○
F–LARGE + SW	L	S	S	○
F–LARGE	L	S	S	—
NO–CNTR + SW	L	—	L	○
NO–CNTR	L	—	L	—

* それぞれのチャンネルの音声信号が直接各スピーカーから出力されます。

表の記号について

F：フロントスピーカー
C：センタースピーカー
SR：サラウンドスピーカー
SW：サブウーファー
○：あり
—：なし
L：Large
S：Small

「Large」「Small」とは?

「L」は、低域を十分に再生できる大きなスピーカーのことです。サラウンドスピーカーを「S」に設定すると、サラウンドスピーカーの低域成分はサブウーファーまたはフロントスピーカーに配分されます。

通常は「Mch DIRECT」または5本すべてのスピーカーを「L」にする「5–LARGE + SW」や「5–LARGE」の設定を選びます。マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクの再生時に、音が割れたりマルチチャンネル再生の効果が不十分に感じられるときは、該当するスピーカーの設定を「S」に設定してください。

5 ⏮ AMS ⏭ダイヤルを押す。

MENUを押すと通常表示に戻ります。

ご注意

- 「Mch DIRECT」を選択すると、マルチチャンネルマネジメント機能は働きません（バランス調節もできません）。
- 「SW」を「—」に設定した場合、フロントスピーカーの設定は「L」固定になります。
- LFE*信号を含んでいないトラックの再生時はサブウーファーから音声は出力されません（「Mch DIRECT」、「5–LARGE + SW」または「NO–CNTR + SW」が選択されているときなど）。
  LFE信号を含んでいないトラックの再生時にもサブウーファーから低域成分を出力させたい場合は、スピーカー設定を「S」とした設定（「5–SMALL + SW」または「F–LARGE + SW」）を選びます。
  * Low Frequency Enhancement（低域信号）（「.1 ch」と表示されています。）
- マルチチャンネルマネジメント機能で、「2ch DIRECT」、「Mch DIRECT」以外の再生モードを選択すると、各スピーカーへの音の配分が変わるため、全体の音量が下がる場合があります。その場合は、アンプのボリュームで調節してください。
- マルチチャンネルモード時に再生モードを変更すると、各スピーカーの出力バランス設定は解除されます。
- この機能は、CD再生中は働きません。

各スピーカーの出力バランスを調節する

マルチチャンネルモードのときは、再生音を聞きながら各スピーカーの出力バランスを調節することができます。停止状態でテストトーンを聞きながら調節することも可能です。付属のリモコンでも調節することができます。

「SURR BAL」
フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの出力レベル相対バランス

「CNTR BAL」
フロントスピーカーとセンタースピーカーの出力レベル相対バランス

「SW BAL」
フロントスピーカーとサブウーファーの出力レベル相対バランス

ご注意
- マルチチャンネルモードの種類によっては、出力バランス設定が働かない場合があります。
- 「Mch DIRECT」選択時は、出力バランスの設定はできません。

1 MENU（またはリモコンのLEVEL ADJ）を押す。

リモコンで操作する場合、停止中は手順4に、再生中は手順6に進んでください。

2 ⏮◀ AMS▶⏭ダイヤルを回して、「LEVEL ADJUST」を選ぶ。

3 ⏮◀ AMS▶⏭ダイヤルを押す。

再生中は手順6に進んでください。

4 ⏮◀ AMS▶⏭ダイヤルを回して、「TONE ON」を選ぶ。

5 ⏮◀ AMS▶⏭ダイヤルを押す。

各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。表示窓には、テストトーンが出力されているスピーカーが表示されます。

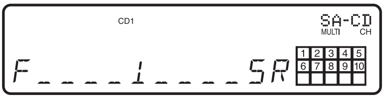
6 ⏮◀ AMS▶⏭ダイヤルを回して、調節したい項目を選ぶ。

「SURR BAL」、「CNTR BAL」、「SW BAL」の中から選びます。

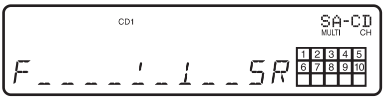
ご注意
マルチチャンネルモード（20ページ）で、サブウーファーを「—」に設定した場合、「SW BAL」は設定できません（「NOT IN USE」と表示されます）。センタースピーカー、サラウンドスピーカーについても同様です。

7 ⏮◀ AMS▶⏭ダイヤルを押す。

出力バランス設定画面が表示されます。停止中は選ばれているスピーカーからテストトーンが出力されます。
例えば、「SURR BAL」を選んでいる場合（停止中）、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーからのみテストトーンが出力されます。



8 ⏮◀ AMS▶⏭ダイヤルを回して、出力バランスを調節する。



ご注意
出力バランスは最大24段階までの設定が可能です。細かい調整が可能なので、目盛りの動きを確認できない場合があります。

次のページへつづく

9 ⏮ AMS ⏭ダイヤルを押す。

手順6の状態に戻ります。
他のスピーカー調節をする場合は、手順6から9をくり返します。

10 調節が終了したら、MENU（またはリモコンのLEVEL ADJ）を押す。

通常表示に戻ります。

スピーカーまでの距離を設定する

接続しているアンプに距離設定メニューがない場合は、本機でスピーカーの距離を調節することができます。接続しているアンプにスピーカー距離設定機能がある場合は、アンプ側で設定することをおすすめします。この設定は、マルチチャンネルスーパーオーディオCD使用時のみ可能です。お買い上げ時、スピーカーまでの距離はすべて3メートルに設定されています。

「FRT DIST」

リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離
スピーカーがリスニングポジションから等距離に設置されていない場合は、近い方に合わせてください。

「SURR DIST」

リスニングポジションからサラウンドスピーカーまでの距離
スピーカーがリスニングポジションから等距離に設置されていない場合は、近い方に合わせてください。

「CNTR DIST」

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離

「SW DIST」

リスニングポジションからサブウーファーまでの距離

ご注意

- 本機と本機に接続しているアンプの両方でスピーカー距離を設定した場合は、両方が働くため、適切な音質を得られません。
- 下記のような場合にはスピーカー距離を設定できません。
  - 本機がCD情報（あるいはスーパーオーディオCDのCDエリア）を読み取っているとき
  - 本機がスーパーオーディオCDの2チャンネルエリアを読み取っているとき

1 MENUを押す。

2 ◀◀ AMS▶▶ダイヤルを回して、「SPK DIST」を選ぶ。

3 ◀◀ AMS▶▶ダイヤルを押す。

4 ◀◀ AMS▶▶ダイヤルを回して、設定項目を選ぶ。

「FRT DIST」、「SURR DIST」、「CNTR DIST」、「SW DIST」のいずれかを選びます。

ご注意

マルチチャンネルモード（20ページ）で、サブウーファーを「—」に設定した場合、「SW DIST」は設定できません（「NOT IN USE」と表示されます）。「CNTR DIST」についても同様です。

5 ◀◀ AMS▶▶ダイヤルを押す。

スピーカーまでの距離が表示されます。例えば、「SURR DIST」を選択した場合は、次のように表示されます。



6 ◀◀ AMS▶▶ダイヤルを回して、スピーカーまでの距離を設定する。

1.0メートルから7.0メートルの範囲で0.1メートルずつ調節できます。



7 ◀◀ AMS▶▶ダイヤルを押す。

手順4に戻ります。さらに設定項目を追加したい場合は、手順4から7をくり返してください。

8 設定を終了するには、MENUを押す。

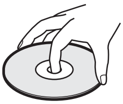
距離設定の単位を選ぶには

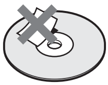
上記の手順4で「DIST UNIT」を選びます。◀◀ AMS▶▶ダイヤルを回して、「SEL–METER」（メートル）または「SEL–FEET」（フィート）を選び、◀◀ AMS▶▶ダイヤルを押します。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 文字の書かれていない面（再生面）に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。





- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用しますと、本機の故障の原因となることがあります。
- 中古／レンタルCDなどでシールやのりが付着しているディスクは使用しないでください。

保存のしかた

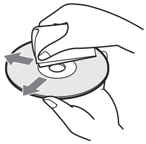
- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

ディスクの置きかた

ディスクを入れるときは、確実にトレイにのせてください。ディスクがずれていると、本機やディスクを破損する場合があります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽くふきます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布でふいた後、さらに乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

音が出ない。

➔ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
➔ アンプを正しく操作していない。

DIGITAL (CD) OUT COAXIAL/OPTICALから音が出ない。

➔ スーパーオーディオCDの音声はDIGITAL (CD) OUT COAXIAL/OPTICALから出力されません（8ページ）。

再生が始まらない。

➔ ディスクが入っていない。
➔ 文字の書いてある面を上にしてディスクトレイにディスクを置く。
➔ ディスクがななめに入っているので、ディスクを置きなおす。
➔ ディスクが汚れている（24ページ）。
➔ 結露しているので、ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約1時間放置し、再度電源を入れ直してから再生を始める（2ページ）。
➔ 本機で再生できないディスクを入れている（4ページ）。

リモコンで操作できない。

➔ リモコンと本体との間に障害物がある。
➔ 本体のリモコン受光部 に向けて操作していない。
➔ リモコンの乾電池を交換する。
➔ 本体のコマンドモードがCD2に設定されている（9ページ）。

SUB WOOFERから音が出ない。

➔ サブウーファー「O」の再生モード（20ページ）を選択してください。
➔ LFE信号を含んでいないトラックの再生時はサブウーファーから音声は出力されません（「Mch DIRECT」、「5–LARGE + SW」または「NO–CNTR + SW」が選択されているときなど）。
スピーカー設定を「S」とした設定（「5–SMALL + SW」または「F–LARGE + SW」など）を選ぶとその低域成分がサブウーファーから出力されます。

ディスクが取り出せず、「LOCKED」と表示される。

➔ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

トレイが閉まらず、「REMOVE」と表示される。

➔ トレイに入っているディスクや異物を取り除き、一度電源を切ってから改めて入れ直してください。

これらの処置をしても正常に動作しないときは

上記の内容を確認しても問題が解決せず、正常に動作しないときや、上記以外の問題が発生したときは、一度電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、数分待ってから改めて電源コードを接続してください。

ご注意

電源を入れると、ディスクの種類の判別や調整のため、プレーヤー内からカタカタと音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型式：SCD-XA1200ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

主な仕様

スーパーオーディオCD再生時

再生周波数範囲
　2Hz～100kHz
周波数特性　2Hz～40kHz（－3dB）
ダイナミックレンジ
　100 dB以上
全高調波ひずみ率
　0.003%以下
ワウ・フラッター
　測定限界値（±0.001% W. PEAK）以下

CD再生時

周波数特性　2Hz～20kHz*
ダイナミックレンジ
　96dB以上*
全高調波ひずみ率
　0.0035%以下*
ワウ・フラッター
　測定限界値（±0.001% W. PEAK）以下*

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

出力端子

端子名	端子形状	出力レベル	負荷インピーダンス
ANALOG OUT	ピンジャック	2Vrms（50kΩ時）	10kΩ以上
DIGITAL (CD) OUT OPTICAL*	角形光コネクタージャック	－18 dBm	（発光波長660nm）
DIGITAL (CD) OUT COAXIAL*	同軸コネクタージャック	0.5 Vp-p	75 Ω
PHONES	ステレオ標準ジャック	5 mW	32 Ω

* CDの音声のみ出力

電源・その他

電源　AC 100V、50/60Hz
消費電力　12W
最大外形寸法　430×124×390mm（幅／高さ／奥行、最大突起部含む）
質量　約 7.2kg

付属品

オーディオ接続コード
　ピンプラグ×2（赤/白）（2）
　ピンプラグ×1（黒）（2）
リモートコマンダー
　RM-ASU001（1）
乾電池　単3形（R6）（2）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
安全のために（1）
保証書（1）

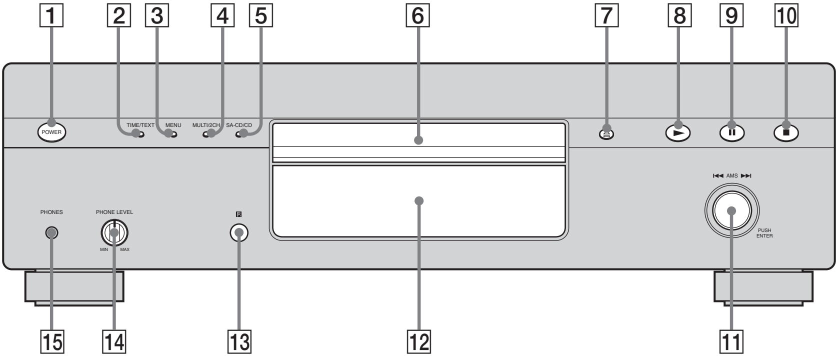
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

・主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
・キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません

各部のなまえ

各部のはたらきについて詳しくは、名称のあとの（　）内のページをご覧ください。
この取扱説明書では、主に本体での操作のしかたを説明しています。リモコンでは、本体と同じ表示のボタンを使って、同様に操作できます。

本体



1 POWERスイッチ（10ページ）

2 TIME/TEXTボタン（13ページ）
押すたびに、曲の再生時間やディスク全体の残り時間、TEXT情報を表示します。

3 MENUボタン（9、11、12、14、19、21、23ページ）
メニュー項目を表示します。
また、メニューを終了し通常の表示に戻します。

4 MULTI/2CHボタン（5、12ページ）
2チャンネルエリアとマルチチャンネルエリアの両方が記録されているディスク（5ページ）再生時に、マルチチャンネル再生と2チャンネル再生を切り換えます。

5 SA-CD/CDボタン（5、11ページ）
ハイブリッドディスク再生時に、スーパーオーディオCD層の再生と、CD層の再生を切り換えます。

6 ディスクトレイ（10ページ）

7 ≙ボタン（10ページ）

8 ►ボタン（10、15、17、18ページ）

9 ▮▮ボタン（10ページ）

10 ■ボタン（10、18ページ）

11 ⏮AMS⏭ダイヤル（AMS:頭出し）（9、11、12、14、15、17、19、21、23ページ）

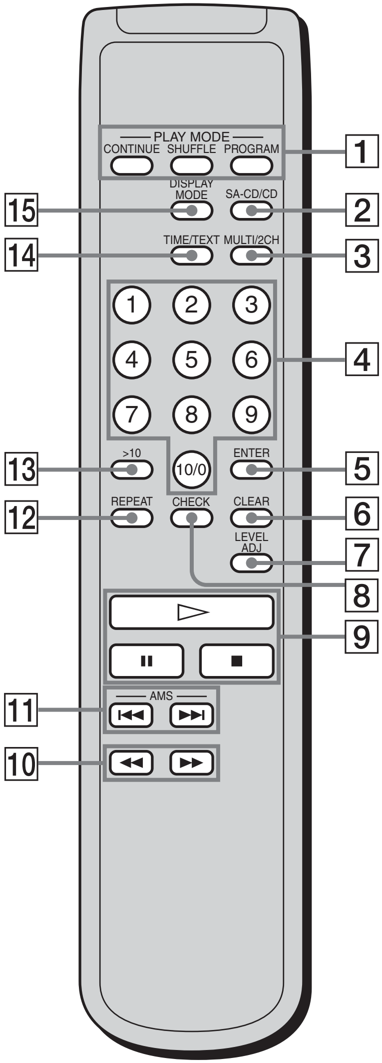
12 表示窓（12ページ）

13 リモコン受光部 Ⓡ（6ページ）

14 PHONE LEVEL
ヘッドホンの音量を調節します。

15 PHONES
ヘッドホンをつなぎます。
ヘッドホン端子には、ANALOG 2CH OUT端子と同じ内容の信号が出力されます（マルチチャンネルのダウンミックス信号は出力されません）。

リモコン



1 CONTINUEボタン（17、18ページ）
シャッフルやプログラム再生中に押すと、ふつうの再生に戻ります。

SHUFFLEボタン（17ページ）
PROGRAMボタン（17ページ）

2 SA-CD/CDボタン（5、11ページ）
ハイブリッドディスク再生時に、スーパーオーディオCD層の再生と、CD層の再生を切り換えます。

3 MULTI/2CHボタン（5、12ページ）
2チャンネルエリアとマルチチャンネルエリアの両方が記録されているディスク（5ページ）再生時に、マルチチャンネル再生と2チャンネル再生を切り換えます。

4 数字ボタン（11ページ）
ダイレクト選曲を行います。

5 ENTERボタン（17ページ）

6 CLEARボタン（17、18ページ）
プログラムされた曲を削除します。

7 LEVEL ADJボタン（21ページ）
マルチチャンネルマネージメント機能（19ページ）使用時に出力バランスを調節します。

8 CHECKボタン（18ページ）
プログラムの順番を確認します。

9 ▷ボタン（10、15、17、18ページ）
❚❚ボタン（10ページ）
■ボタン（10、18ページ）

10 ◀◀/▶▶ボタン（15ページ）

11 AMS⏮/⏭（AMS:頭出し）ボタン（9、11、12、14、15、17、19、21、23ページ）

12 REPEATボタン（16ページ）

13 ＞10ボタン（11ページ）
曲番11以上を押すときに使います。

14 TIME/TEXTボタン（13ページ）
押すたびに、曲の再生時間やディスク全体の残り時間、TEXT情報を表示します。

15 DISPLAY MODEボタン（14ページ）
表示を消して再生することができます。

索引

あ行

か行

さ行

た行

は行

ま行

ら行

A-Z